

地域サロンの紹介

十四の会

十四の会。何と読むのでしようか。「としのかい」と読むそうです。

そもそも、この十四の会の始まりは、平成八年まで遡ります。当時は、今日のように定期的に開催するのではなく、気の合った仲間が不定期に集まって、談話するとか、小旅行をするとかをして楽しんでいました。新南浜の町内会は、新しく開発された住宅団地で戸



数が三八戸と小さく、あまりやすかつたのでしようか。不定期に、任意に集まるというスタイルがその後七年間ほど続いていたのですが、平成十四頃年になりますと、市や社協からの「ほのぼのサークル」の勧めもあり、これを機に、「地域サロン」として、手を挙げて現在に至り、十年が経ちました。

平成十五年当時は十五〜十六人のメンバーで活動していたのですが平成二十年には少し減ってきて十人程度で活動しています。足腰の悪い方が増え、一人ぼっちで生活する高齢者を何とか外に出る機会を作り、グラウンドゴルフに誘い、百歳体操で体を少しでも動かしてもらおうよう誘い合って活動を続けています。当町には、いろいろな趣味を持った方が、その趣味を生かして会を盛り上げておられ、例えば、撮りつづけた膨大な写真から、全国の風景や花などの今昔を紹



介したり、アコーディオンの達人の方がみんなと楽しく歌ったり、趣味や特技の生かし方を工夫して楽しんでいきます。今後は高齢者の健康面を重視した活動を続けたいと思っています。このように補助以前からの長い活動と、参加者自身の特

技を生かしたユニークな運営は素晴らしいものがあります。

編集後記

山田学区には多くの地域サロンが活動されています。そのサロンの多くが健康体操を実施しされるようになりました。それも週一回のペースです。

秋には、市民センターのイチョウの木がみごとに黄色に色付き、秋の抜けるような青空に映えまして素晴らしい風景を見せてくれます。

これを写真に収めようと試みますが、後で使いものになるようにはどうしてもとれません。

これから寒くなります。健康には気を付けたいものです。

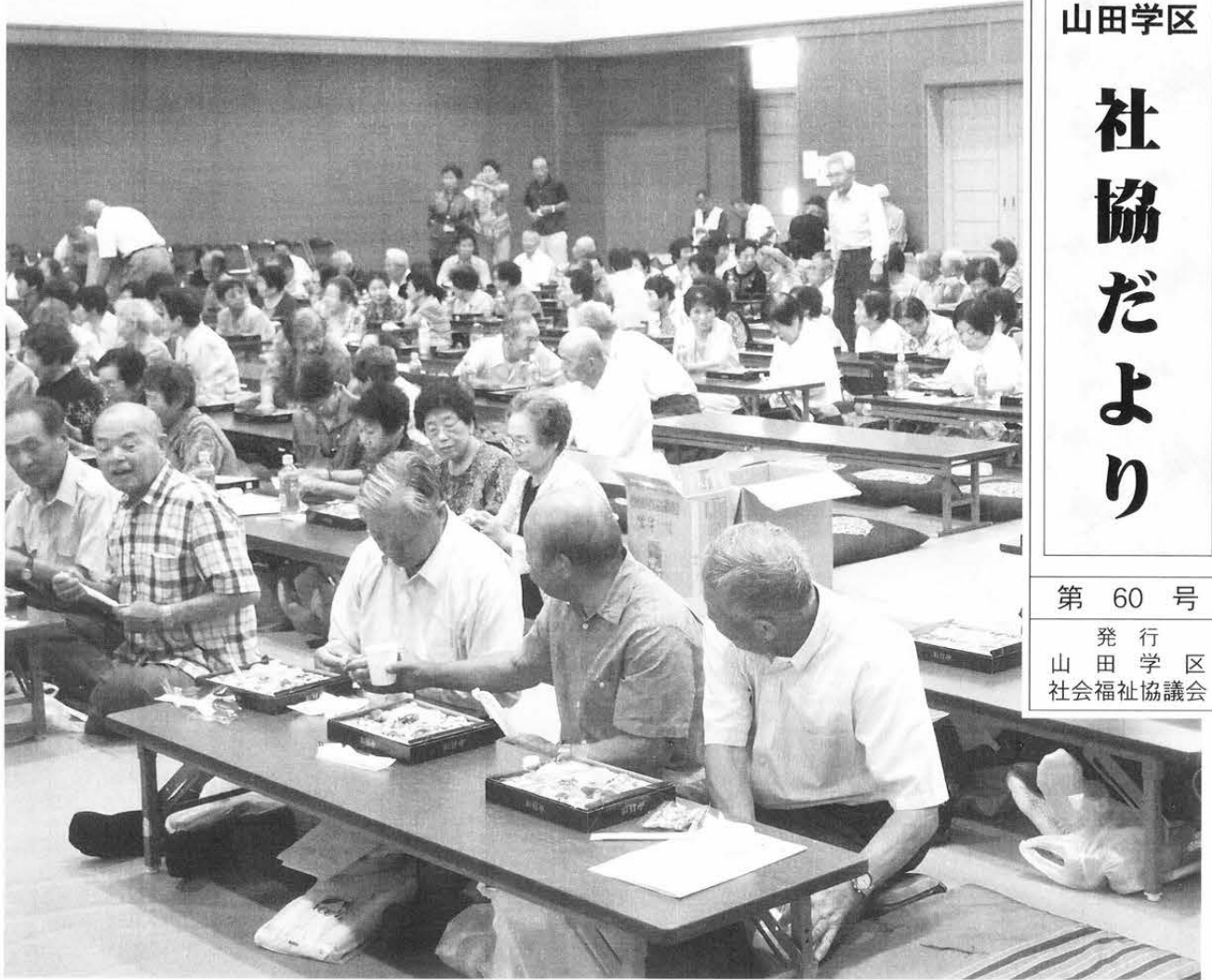


山田学区

社協だより

第 60 号

発行
山田学区
社会福祉協議会



ごあいさつにかえて

会長 岡 顯 朗

山田学区の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃から、山田学区社会福祉協議会の活動には格別のご理解とご協力をいただきまして厚くお礼申し上げます。

今年、山田学区まちづくり協議会の実質的な初年度であります。まちづくり協議会と、その構成団体であります既存の各種団体との望ましい関係とはなにか、まだまだ試行錯誤の状態と感じています。山田学区の皆様のご意見をお待ちしております。

ところで、山田学区社会福祉協議会は昭和三十二年二月に発足いたしました。満五十五年になります。市内の学区社協では最も古く、半世紀を超える長い歴史は、山田学区の社協役員諸先輩の熱情と、学区みなさんの支援のおかげ

であります。

さて、今年も九月十七日の敬老の日に、武道館におきまして敬老会を開催いたしました。学区内にお住まいの七十歳以上の方、四百名余りが出席いただき、ありがとうございます。

山田幼稚園のかわいい園児たちが、招待者の中に入っていき、おじいちゃんやおばあちゃんの肩をたたいたり、手遊びをしたりして、会場を和やかにしてくれました。学区内の演芸サークルの皆さんも鍛えた腕前を披露していただき、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

こうした敬老会におきまして、その裏方として、約百五十名もの方々にご協力をいただいております。この紙面を借りまして、厚くお礼申し上げます。



平和祈念戦没者追悼式

山田学区には、先の戦争で亡くなられた百六十七柱、百五十一遺族の方がおられます。戦後すでに六十七年の歳月が過ぎ去りましたが、今日の平和と繁栄は、戦没者の尊い犠牲の上に築かれているものであり、平和の大切さを認識するため、平和祈念戦没者追悼式を行っています。



ことしは六月九日、ご遺族三十八名の出席を得て、山田市民センターで行いました。そして、我々社協は、地域福祉活動を通じて、命の尊さと、平和を守る大切さをかみしめ、それを子供や孫たちにしつかりと伝える大切さを、改めて再認識したところです。

山田ふれあいまつり

十月二十八日、山田ふれあいまつりが開催されました。当日はあいにくの天気にもかかわらず、多くの方に参加をいただきました。

山田学区社会福祉会は、赤い羽根共同募金をお願いしまして、一万一千三百二十八円の募金をしていただきました。たいへんありがとうございました。

また、民生委員児童委員協議会と共同で、「命のパトン」のポスターセッションも行っています。



福祉委員研修会

今年も草津学区、山田学区合同で、福祉委員と民生委員児童委員協議会との研修会を行いました。

六月十六日(土)、草津市社会福祉協議会の大会議室にて、山田学区二十一名をはじめ、市の社協の職員も加わりまして、全体で五十二名が参加しました。

講師は俵比叡ゆば本舗ゆば八 代表取締役 八木幸子氏にお願いいたしました。二、三元に地域福祉活動を進めよう ―感謝の気持ちを忘れずに―と題して講演をいただきました。その概要は次のとおりです。



初めまして、比叡ゆば本舗ゆば八の八木幸子と申します。

幸子という名前ですが、きつと両親が幸せな世の中になり、幸せに育って欲しい、こんな願いを込めてくれたとおもっています。ですから、私は、幸せのメッセージジャーだと思っています。



の中で求められますのは、サービスであり、サービスには笑顔が必要です。宇宙には同調の法則があり、「ありがとう」といいますと、「ありがとう」が帰ってきますし、「いややあな」といいますと、「いややな」が帰ってきます。



皆様方、福祉員として、民生委員として、日ごろご苦勞なさっておられますことは、頭がさがります。そのためにも、人のために働いておられること自体が、実は、自分に帰ってきます。福祉は、皆さんがご役立ちをされること自体を、天がしっかりと見ています。わたくしたちの命は、しっかりと使命をもって生まれてきています。ですから、命が喜ぶ生き方、天が喜ぶ生き方、それが、世のため、人のための生き方です。

笑顔になれるのは人間だけと言われています。人間のおおきく変わって、進化します。その機会を与えてくれていると考えれば、ありがたいことです。

私は、念ずれば事かなうと信じています。できるだけ厚かましく、甘え上手に願い事を思い浮かべてください。天をキャンパスに見立てて、どうしたいということを出るだけ具体的に、明確に描き上げてください。そしてイメージすると手だてが浮かんできますので、それを一つづつ実施していくと、いつの間にか夢がかないます。

各町の福祉委員紹介

- 横江 茂 (北山田町)
- 木村 利秀 (北山田町)
- 平井 均 (五条町)
- 山岡 健次 (山田町)
- 芝 美鈴 (陽ノ丘団)
- 北川 曉美 (陽ノ丘団)
- 岸本 力 (南山田町)
- 馬場 貢 (南山田町)
- 久泉 洋子 (不動浜)
- 松田真由美 (岡)
- 長谷川弘一 (南山田団地)
- 矢野 弘代 (新南浜)
- 今津 庄治 (御倉町)
- 川島 信次 (三ツ池町)
- 窪田 敏彦 (三ツ池町)
- 山中 秋夫 (新田)
- 山内 久代 (新田)
- 木村 善昭 (出屋敷)
- 奥野カヲル (出屋敷団地)
- 青木美津枝 (出屋敷団地)
- 柴田 良弘 (木川)
- 清水 秀樹 (木川)
- 山中美智子 (木川)